編集後記

2023年5月8日，新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが5類へ移行した。これに伴い，感染者数の把握は週1回の「定点把握」へと変わり，街にはちょうど2020年3月のように，マスクをしている人々としていない人々の混在する景色が戻ってきた。私たちとパンデミックとの3年間に及ぶ戦いは，1つの転換点を迎えたと言えよう。

しかし，残念ながら全国的に感染者数は微増傾向にあり，政府分科会は「第9波が始まっている可能性がある」としている。『和光経済』の編集後記から「新型コロナウイルス」という単語が消えるまでは，今しばらくかかりそうである。また，パンデミックのみならず，1年以上に及ぶロシアによるウクライナへの軍事侵攻も，世界全体に暗い影を落とし続けている。ウクライナもようやく「反転攻勢」に転じつつあるが，ロシアの容赦ない卑劣なミサイル攻撃は，ウクライナの幼い子どもたちの命を日々奪っている。

こうした国内外の情勢に，ここ半年ではChatGPTをはじめとする生成系AIの台頭も重なって，私たちを取り巻く環境は過去に類を見ない速度で変化しており，なかなか一息つく間もない日々が続く。そうした中，米国では二刀流の大谷翔平選手が月間最多の15本塁打（今シーズン30号）を放ち，日本では藤井聡太七冠が羽生善治九段を破り史上初の「八冠」への達成に王手をかけ，また本学では保証人同伴での入学登録が対面実施されるなど，上述の暗い話題を吹き飛ばす，細やかな希望溢れる話題も私たちの日常に木漏れ日のように届くようになった。生成系AIはこうした「希望」は生成できない。開発まで数年かかると言われたワクチンをすぐに作り，パンデミック下でも希望を生成できる私たち人類にとって「シンギュラリティ」などまだまだ遠い未来の話である。

また，生成系AIは論文という社会科学の産物，すなわち人類の幸福に資するものの執筆もできない。それを今回の『和光経済』第56巻第1号は如実に証明している。AIはツールにすぎない。AIを恐れるのではなく，AIを活用し，如何により良い未来を作って行くか―それが私たちの考えるべきことであろう。

（2023年7月　坪井美都紀）

和光経済　第56巻 第1号

2023年8月4日　印刷
2023年8月10日　発行

発行者　清水雅貴
制作　八千代出版
〒101-0061　東京都千代田区神田三崎町2-2-13

発行所　和光大学社会経済研究所
〒195-8585　東京都町田市金井ヶ丘5-1-1